

## がん専門医養成コース

## 緩和医療専門医養成

主科目 副科目	緩和医療学 Palliative Medicine	開講	板橋	区分	選択必修	副科目	有
------------	------------------------------	----	----	----	------	-----	---

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎有賀 悦子		大澤 岳史	高木 雄亮	栃木 衛 (板橋・精神 教授) 横山 直之 (板橋・内科 准教授)
—					
—					

	緩和医療学Ⅰ (1年次)				緩和医療学Ⅱ (2年次)				緩和医療学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	がん、非がん(特に心不全)を対象とする。講義・演習は、実臨床において緩和医療全体を理解できる構成となっている。実習は、臨床推論・症候学を基盤としたコンサルテーションをベッドサイドで実施する。院生グラウンドラウンド(学生がテーマを選択し、医療スタッフにレクチャー)を行うことで、教育講義スキルを身に着ける。				実習は、「緩和医療学Ⅰ」から継続的にコンサルテーションにあたる。救急医療における終末期医療についてカンファレンス等を通して学ぶ。さらに、がんセンター、他科カンファレンスへの参加、緩和ケアチームカンファレンスで、問題点の整理、専門家への依頼を含め、問題解決能力を向上させる。ジャーナルクラブにおける論文の批判的吟味を踏まえた臨床応用を演習を通して学ぶ。				コンサルテーション実習を継続する。さらに、地域医療、他施設緩和ケア病棟や緩和ケアチームでの実習を通して、連携スキル、患者コーディネートを学ぶ。外来緩和ケア実習で、オンザジョブトレーニングを実践する。メディカルスタッフ(看護師、薬剤師)へのレクチャーを経験し、指導力を高める。チームマネジメント、地域の行政、福祉、教育関連部署との周辺マネジメントを演習する。			
到達目標	患者の苦痛を身体、心理、社会、霊的などの多角的問題として包括的に把握し、プロブレムリストを作成することができる。症状の病態鑑別ができる。身体的な苦痛の対処方法を説明できる。適切なコミュニケーションスキルを用いた診療ができる。チーム医療の一員として行動できる。受け持ち症例について、整理されたプレゼンテーションができる。緩和医療に関する英文文献の内容を要約し、発表できる。				他の医療従事者と協力して、心理社会的問題への対処を立案できる。患者・家族の援助のための社会資源および療養の場(在宅医療、緩和ケア病棟、地域支援病院、介護施設など)の選択肢を地域の医療機関と協力して患者の医療体制を提案することができる。患者・家族が病状や予後に対して様々な理解や感情を持つことに配慮する。患者の自律性を尊重し、支援する。				予後、病状を見通したケアゴールを多職種と共に、設定することができる。End of Lifeにおける倫理的な問題について説明できる。家族の予期悲嘆や死別後の心理的な問題について説明できる。メディカルスタッフへ教育的介入ができる。			
事前事後学習	臨床疑問を作成し、論文検索、論文の読み込み、批判的吟味を行う習慣をつける。関連分野(腫瘍学、外科学、内科学等)の学習を行う。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				臨床推論プロセスに適応させ、治療選択を行うための論文検索と速読の自己学習を進める。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				学会参加、専門医取得試験のための学習を行う。海外施設視察(随意)1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	観察記録(実習・演習)(50%) 研修到達達成評価表(32項目)自己評価・指導教員評価(50%) ジャーナルクラブ発表・討論(月1回) リサーチミーティング発表・討論(月1回) 院生グラウンドラウンド(年1回)				観察記録(実習・演習)(50%) 研修到達達成評価表(32項目)自己評価・指導教員評価(50%) ジャーナルクラブ発表・討論(月1回) リサーチミーティング発表・討論(月1回) 院生グラウンドラウンド(年1回) 学会発表(年1回以上)				観察記録(実習・演習)(50%) 研修到達達成評価表(32項目)自己評価・指導教員評価(50%) ジャーナルクラブ発表・討論(月1回) リサーチミーティング発表・討論(月1回) 院生グラウンドラウンド(年1回) 学会発表(年1回以上)			

■主な演習(講義・実習含む)

	緩和医療学Ⅰ (1年次)	緩和医療学Ⅱ (2年次)	緩和医療学Ⅲ (3年次)
板橋	木 曜日 9 : 00 ~ 10 : 00 症候学アプローチⅠ	木 曜日 9 : 00 ~ 10 : 00 症候学アプローチⅡ	木 曜日 9 : 00 ~ 10 : 00 症候学アプローチⅢ
	月 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 月・金 コンサルテーション問題解決演習Ⅰ	火 曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 コンサルテーション問題解決演習Ⅱ	水 曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 コンサルテーション問題解決演習Ⅲ
	木 曜日 10 : 30 ~ 12 : 00 ベッドサイドティーチングミーティング	木 曜日 15 : 30 ~ 16 : 00 ジャーナルクラブ	木 曜日 10 : 30 ~ 12 : 00 病棟ヒアリングラウンド
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

教科書・参考書

専門家をめざす人のための緩和医療学 日本緩和医療学会編集 南江堂 東京 2014年  
Oxford text book of palliative medicine, 5th ed. Oxford University Press. 2015 ISBN-13: 978-0199656097 ISBN-10: 0199656096

その他履修上の注意事項

学外演習は、緩和医療専門医修得に関係する緩和ケア病棟、在宅緩和ケアは必須とする。  
3か月を超えない海外研修が可能であるが、情報を得たり、条件を整えることは自ら実施すること。海外研修における助成金制度利用を希望する場合は、事前に教員に相談すること。  
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。  
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	
	共通科目	

関連する専門医資格

- 1) 日本緩和医療学会専門医
- 2) 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

キャリアパス(モデルコース)

